

授業科目名	社会の理解		
担当者名	竹並 正宏		
科目コード	2500001	授業形態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護を必要とする者に対して介護福祉士としての職務を遂行するに際して、介護サービス利用主体の生活や社会背景を理解しサービスを提供するのに必要な行政施策の仕組みやサービス利用にかかわる主な法制度体系について習得し社会保障、介護保険制度と障害者総合支援法について基本的知識を学び、介護福祉教育の基盤に関しての重要性を深めていく。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊敬の保持、介護実践の基礎となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性が身に付いている。 2. 保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、わが国の社会保障、介護保険制度と障害者自立支援制度について基本的知識が身に付いている。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活と福祉・・・家族、地域、社会・組織 2. 生活と福祉・・・少子高齢化社会と福祉 3. 社会保障制度・・・社会保障制度の基本的考え方 4. 社会保障制度・・・社会保障制度の発達、しくみの基本的理解 5. 社会保障制度・・・現代社会における社会保障制度 6. 介護保険制度・・・介護保険制度創設の背景及び目的 7. 介護保険制度・・・介護保険制度の動向、介護保険制度のしくみの基礎的理解 8. 介護保険制度・・・介護保険制度における組織・団体の役割、専門職の役割 9. 障害者総合支援法・・・創設の背景及び目的 10. 障害者総合支援法・・・しくみの基礎的理解 11. 障害者総合支援法・・・組織、団体の機能と役割 12. 介護実践に関連する諸制度・・・個人の権利を守る制度の概要 13. 介護実践に関連する諸制度・・・保険医療福祉に関する施策の概要 14. 介護実践に関連する諸制度・・・介護と関連領域との連携に必要な法規等 15. ま と め 		
成績評価の方法	・授業態度（30%）、レポート（20%）、定期試験（50%）を行い、総合的に判断する。		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・利用者本位のサービスを提供するために必要な基礎的知識を身に付けるため、一般常識だけでなく日本の少子高齢化などの諸問題に関心を持ち予習を行う。		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 社会と制度の理解」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストを行い、整理していく。 ・視聴覚を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。 		
その他 (受講生への要望等)	・社会の理解は保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、わが国の社会保障、介護保険制度と障害者総合支援法について、基本的知識が身に付くことを認識して授業に臨んでほしい。		
教員 e-mail アドレス	takenami@knwu.ac.jp		

授業科目名	介護の基本 I		
担当者名	和田 悦子		
科目コード	2500002	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	3	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護福祉士は医療職などとは異なり、サービスの提供にあたって利用者の生活すべてを視野に入れ、様々な背景や条件を考慮しつつ最適な生活支援サービスを提供しなければならない。生活とは何か、自立とは何か、専門職同士の連携とはどのようなものか専門職としての倫理とは何か。介護福祉という制度が登場する経緯や、制度などの概要など専門性について学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護とは何かを歴史的な経緯から介護が必要になった理由に触れながら、その成り立ちや考え方を理解し、生活支援としての介護の役割や専門性について学ぶ。 2. 考察を促す記述を心がけるとともに、概念図を繰り返し提示するなどして、あらゆる場面で支援の立脚点となる理解が出来るようにする。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護とは・・・介護の成り立ち 介護福祉士を取り巻く状況・歴史 2. 介護の概念・定義 3. 「介護」の見方・考え方の変化 4. 介護問題の背景 5. 「自立に向けた介護」のための介護職の役割 6. 「生活支援」としての介護とは 7. 介護の専門性 社会福祉法及び介護福祉法 8. 利用者に合わせた生活支援 尊厳を支える介護 9. 「自立」と「自律」に向けた支援 10. 介護サービスの在り方 11. 自らの「介護観」を育むことの重要性 12. 介護の仕事の本質的価値・・・求められる介護福祉士像 13. 介護福祉士の倫理・日本介護福祉士倫理綱領・介護に於ける倫理観 14. 他者への共感的かかわり・個別ケアの考え方 15. まとめ 		
成績評価の方法	・定期試験（100%）		
授業外で行うべき学修（準備学修・事後学修等）	・教科書を読み復習を行ってほしい。また、次回講義予定の確認及び教科書を読んでおくこと。		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」（中央法規出版）		
その他（受講生への要望等）	・近隣に施設や事業所があれば見学をさせてもらい高齢者の生活等を理解する。		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp		

授業科目名	介護の基本 I		
担当者名	和田 悦子		
科目コード	2500002	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	3	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護福祉士は医療職などとは異なり、サービスの提供にあたって利用者の生活すべてを視野に入れ、様々な背景や条件を考慮しつつ最適な生活支援サービスを提供しなければならない。生活とは何か、自立とは何か、専門職同士の連携とはどのようなものか専門職としての倫理とは何か。介護福祉という制度が登場する経緯や、制度などの概要など専門性について学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護とは何かを歴史的な経緯から介護が必要になった理由に触れながら、その成り立ちや考え方を理解し、生活支援としての介護の役割や専門性について学ぶ。 2. 考察を促す記述を心がけるとともに、概念図を繰り返し提示するなどして、あらゆる場面で支援の立脚点となる理解が出来るようにする。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護を必要とする人の理解・私たちの生活の理解・生活とは何か 17. 生活にとって大切な要素 18. 生活の特性 私たちの生活活動についての理解 19. 高齢者や障害を持った人たちとの暮らしと介護 20. 高齢者の暮らしを支える介護 21. 障害を持った人の暮らしを支える介護 22. QOL の視点の重視・考え方・実践する為の課題・心の交流の体験 23. 「その人らしさ」「生活のニーズ」の理解「その人らしさ」とは 24. 「その人らしさ」の背景 25. 「その人らしさ」を支える介護・生活ニーズの把握・個別支援の視点 26. 高齢者が生きてきた時代や文化の理解・個々の生活ニーズと公的サービス 27. 生活障害の理解・生活障害の視点・生活障害の視点からとらえた認知症 28. 生活環境の重要性・利用者へ合った生活の場・生活の利便性を向上 29. 心の健康を奪う生活環境・人的な生活環境の重要性 30. まとめ 		
成績評価の方法	・定期試験（100%）		
授業外で行うべき学修（準備学修・事後学修等）	・教科書を読み復習を行ってほしい。また、次回講義予定の確認及び教科書を読んでおくこと。		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」（中央法規出版）		
その他（受講生への要望等）	・近隣に施設や事業所があれば見学をさせてもらい高齢者の生活等を理解する。		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp		

授業科目名	介護の基本 I		
担当者名	和田 悦子		
科目コード	2500002	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	3	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護福祉士は医療職などとは異なり、サービスの提供にあたって利用者の生活すべてを視野に入れ、様々な背景や条件を考慮しつつ最適な生活支援サービスを提供しなければならない。生活とは何か、自立とは何か、専門職同士の連携とはどのようなものか専門職としての倫理とは何か。介護福祉という制度が登場する経緯や、制度などの概要など専門性について学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護とは何かを歴史的な経緯から介護が必要になった理由に触れながら、その成り立ちや考え方を理解し、生活支援としての介護の役割や専門性について学ぶ。 2. 考察を促す記述を心がけるとともに、概念図を繰り返し提示するなどして、あらゆる場面で支援の立脚点となる理解が出来るようにする。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 31. 生活支援とその意義・・・介護が行う生活支援 32. 身体介護とその意義 33. 家事支援とその意義 34. 生活支援ニーズを見出す相談援助とその意義 35. 利用者・家族に対する精神的支援とその意義 36. 社会・文化的援助とその意義 37. よりよい介護を目指すために 38. 尊厳を支える介護 39. QOL の考え方 40. ノーマライゼーションの実現 その考え方 41. ICF の考え方 42. ICF の視点に基づくアセスメント 43. 介護とリハビリテーション 介護に於けるリハビリテーションの考え方 44. リハビリテーション専門職との連携 45. まとめ 		
成績評価の方法	・定期試験（100%）		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・教科書を読み復習を行ってほしい。また、次回講義予定の確認及び教科書を読んでおくこと。		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題集」（中央法規出版）		
その他 (受講生への要望等)	・近隣に施設や事業所があれば見学をさせてもらい高齢者の生活等を理解する。		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp		

授業科目名	介護の基本 II		
担当者名	和田 悦子		
科目コード	2500003	科目コード	演習
学 年	1	学 年	後期
単 位 数	3	単 位 数	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護福祉士は医療職などとは異なり、サービスの提供にあたって利用者の生活すべてを視野に入れ、様々な背景や条件を考慮しつつ最適な生活支援サービスを提供しなければならない。生活とは何か、自立とは何か、専門職同士の連携とはどのようなものか専門職としての倫理とは何か。介護福祉という制度が登場する経緯や、制度などの概要など専門性について学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護とは何かを歴史的な経緯から介護が必要になった理由に触れながら、その成り立ちや考え方を理解し、生活支援としての介護の役割や専門性について学ぶ。 2. 国家資格について資格が誕生した経緯求められる職業意識 介護福祉士の法的根拠を理解する。職業倫理・専門職能団体の活動を理解する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士を取り巻く状況 介護問題の背景と介護福祉士制度 2. 求められる介護福祉士像 心身の状況に応じた介護を考える 3. 社会福祉法及び介護福祉法 4. 社会福祉法及び介護福祉法に関連する諸規定 5. 介護に於ける専門職能団体の活動とその役割 6. 介護実践における倫理 日本介護福祉士会倫理綱領 7. 介護サービスの特性 介護サービスの意味と特性 8. ケアマネジメントの意味としくみ 9. 介護サービスの歴史的返還と時代背景 10. 介護サービスの種類と提供の場 11. ケアマネジメントとその課題 12. 要介護者が利用している介護保険サービスの種類とその満足度 13. 各種障害者が利用している障害者自立支援サービスの種類とその満足度 14. 介護サービス提供の場の特性 介護福祉士の働く場 15. まとめ 		
成績評価の方法	・定期試験（100%）		
授業外で行うべき学修 （準備学修・事後学修等）	・教科書を読み復習を行ってほしい。また、次回講義予定の確認及び教科書を読んでおくこと。		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 介護の基本II」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」（中央法規出版）		
その他 （受講生への要望等）	・近隣に施設や事業所があれば見学をさせてもらい高齢者の生活等を理解する。		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp		

授業科目名	介護の基本 II		
担当者名	和田 悦子		
科目コード	2500003	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	3	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護福祉士は医療職などとは異なり、サービスの提供にあたって利用者の生活すべてを視野に入れ、様々な背景や条件を考慮しつつ最適な生活支援サービスを提供しなければならない。生活とは何か、自立とは何か、専門職同士の連携とはどのようなものか専門職としての倫理とは何か。介護福祉という制度が登場する経緯や、制度などの概要など専門性について学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護とは何かを歴史的な経緯から介護が必要になった理由に触れながら、その成り立ちや考え方を理解し、生活支援としての介護の役割や専門性について学ぶ。 2. 国家資格について資格が誕生した経緯求められる職業意識 介護福祉士の法的根拠を理解する。職業倫理 専門職能団体の活動を理解する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 16. 居宅系サービス提供の場とその特性（高齢者） 17. 居宅系サービス提供の場とその特性（障害者） 18. 入所系サービス提供の場とその特性（高齢者） 19. 入所系サービスの提供の場とその特性（障害者） 20. 他職種連携・・・他職種連携の意義と目的 21. 協働職種の理解と連携の在り方 22. 利用者を取り巻く地域連携の実際 23. 身近なサービスや機関の所在地 24. 介護実践における連携 地域連携 役割 機能 25. 地域包括支援センターの役割 連携 26. 介護実践における市町村 都道府県の機能と役割 27. 介護における安全の確保 28. 安全確保のためのリスクマネジメント 29. 事故 トラブルを繰り返さないための検討 30. まとめ 		
成績評価の方法	・定期試験（100%）		
授業外で行うべき学修（準備学修・事後学修等）	・教科書を読み復習を行ってほしい。また、次回講義予定の確認及び教科書を読んでおくこと。		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 介護の基本II」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」（中央法規出版）		
その他（受講生への要望等）	・近隣に施設や事業所があれば見学をさせてもらい高齢者の生活等を理解する。		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp		

授業科目名	介護の基本 II		
担当者名	和田 悦子		
科目コード	2500003	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	3	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護福祉士は医療職などとは異なり、サービスの提供にあたって利用者の生活すべてを視野に入れ、様々な背景や条件を考慮しつつ最適な生活支援サービスを提供しなければならない。生活とは何か、自立とは何か、専門職同士の連携とはどのようなものか専門職としての倫理とは何か。介護福祉という制度が登場する経緯や、制度などの概要など専門性について学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護とは何かを歴史的な経緯から介護が必要になった理由に触れながら、その成り立ちや考え方を理解し、生活支援としての介護の役割や専門性について学ぶ。 2. 国家資格について資格が誕生した経緯求められる職業意識 介護福祉士の法的根拠を理解する。職業倫理 専門職能団体の活動を理解する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 31. 事故防止：安全対策 32. 事故防止：安全対策のためのリスクマネジメントの仕組み 33. 事故防止：安全対策の基礎と実際 34. 演習：自分でトイレに行こうとして転倒 35. 感染症管理の方策 36. 生活の場での感染対策 37. 高齢者介護施設と感染症対策 38. 感染対策とリスクマネジメント 39. 感染対策の基礎知識 40. 感染症発生時の対応：感染防止の基本、感染予防の観察ポイント 41. 介護に関わる人の健康管理：健康管理の意義目的 42. 介護職の健康と介護の質：心の健康管理 体の健康管理 43. 安心して働ける環境づくり：労働環境の整備、改善、労働安全の基本原則 44. 介護を目指す者 専門職業人としての介護福祉士 45. まとめ 		
成績評価の方法	・定期試験（100%）		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・教科書を読み復習 次回講義予定の確認及び教科書を読む。		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 介護の基本II」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」（中央法規出版）		
その他 (受講生への要望等)	・近隣に施設や事業所があれば見学をさせてもらい高齢者の生活等を理解する。		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp		

授業科目名	コミュニケーション技術		
担当者名	竹並 正宏		
科目コード	2500004	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	通年（前期）
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	<p>介護福祉士には利用者に対するケアだけでなく、求められるさまざまなコミュニケーション技法についてより具体的な理解を促すために、多くの事例を取り上げコミュニケーションにおける意義と目的、記録、報告・連絡・相談、会議について連携をキーワードにまとめる。</p> <p>コミュニケーションをするのではなく在るものにとらえることによりコミュニケーションの中心を常に利用者においてかかわることの大切さをテーマに介護技術の提供を通して生活を支援するという介護福祉士の専門性と人間の基本願望であるコミュニケーションとの関係を踏まえたかかわりのあり方を修得する。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護技術の提供を通して生活を支援するという介護福祉士の専門性と人間の基本願望であるコミュニケーションとの関係の姿勢が身に付いている。 2. 新しい視点も提案し、深く理解することを目指し、積み重ねて介護福祉士の専門性につながるコミュニケーション技術の姿勢が身に付いている。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの意義とその原因 2. コミュニケーションの基本 3. 利用者・家族との信頼関係の形成 4. 利用者を深く理解するためのコミュニケーション技術 5. 人間に携わるコミュニケーション願望と介護の特性 6. 生活支援における介護技術とコミュニケーション 7. 介護福祉士に求められるコミュニケーション技術 8. 話を聴く技法 9. 「事例」話を聴く技法 10. 感情表現を察する技法 11. 利用者の感情表現を察する技法 12. 納得と同意を得る技法 13. 質問の技法 14. 相談・助言・指導の技法 15. 利用者とのコミュニケーションのまとめ 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に数回、小テストを行う。 授業態度（30%）、レポート（20%）、定期試験（50%）を行い、総合的に判断する。 		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士がコミュニケーションを通してクライアントを支援しようとする時には、クライアントの疾病以外も含めた生活全体を見渡す力を学習するため社会の諸問題に興味や関心を示す。 ・コミュニケーション障害の理解、傷害に応じたコミュニケーション技法について考え、適切にコミュニケーションを取ることができる。 		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布し重要点を記入して参考資料としていく。 ・視聴覚教育やKJ法を使いながら、より具体的に進めていく。 		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを通して、介護福祉士としての福祉の向上に貢献することを要望する。 		
教員 e-mail アドレス	takenami@knwu.ac.jp		

授業科目名	コミュニケーション技術		
担当者名	竹並 正宏		
科目コード	2500004	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	通年（後期）
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	<p>介護福祉士には利用者に対するケアだけでなく、求められるさまざまなコミュニケーション技法についてより具体的な理解を促すために、多くの事例を取り上げコミュニケーションにおける意義と目的、記録、報告・連絡・相談、会議について連携をキーワードにまとめる。</p> <p>コミュニケーションをするのではなく在るものにとらえることによりコミュニケーションの中心を常に利用者においてかかわることの大切さをテーマに介護技術の提供を通して生活を支援するという介護福祉士の専門性と人間の基本願望であるコミュニケーションとの関係を踏まえたかかわりのあり方を修得する。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護技術の提供を通して生活を支援するという介護福祉士の専門性と人間の基本願望であるコミュニケーションとの関係の姿勢が身に付いている。 2. 新しい視点も提案し、深く理解することを目指し、積み重ねて介護福祉士の専門性につながるコミュニケーション技術の姿勢が身に付いている。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの障害とその原因 2. コミュニケーション障害の対応を考えるための視点 3. コミュニケーション障害の対応の基本 4. 認知症に応じたコミュニケーション技術 5. 視力・聴力障害に応じたコミュニケーション技術 6. 知的障害に応じたコミュニケーション技術 7. 精神障害に応じたコミュニケーション技術 8. チームのコミュニケーションとその方法 9. 介護における記録の意義と目的 10. 記録の書き方と留意点 11. 「報告」「連絡」「相談」の意義と目的 12. 「報告」「連絡」「相談」の具体的方法と留意点 13. 会議の種類と運用 14. チームのコミュニケーションにおける会議の必要性 15. 介護におけるコミュニケーションのまとめ 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に数回、小テストを行う。 授業態度（30%）、レポート（20%）、定期試験（50%）を行い、総合的に判断する。 		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士がコミュニケーションを通してクライアントを支援しようとする時には、クライアントの疾病以外も含めた生活全体を見渡す力を学習するため社会の諸問題に興味や関心を示す。 ・コミュニケーション障害の理解、傷害に応じたコミュニケーション技法について考え、適切にコミュニケーションを取ることができる。 		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布し重要点を記入して参考資料としていく。 ・視聴覚教育やKJ法を使いながら、より具体的に進めていく。 		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを通して、介護福祉士としての福祉の向上に貢献することを要望する。 		
教員 e-mail アドレス	takenami@knwu.ac.jp		

授業科目名	生活支援技術 I		
担当者名	和田 悦子		
科目コード	2500023	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護を必要とする利用者に対し尊厳保持の立場から、どのような状況にあってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることを含め適切な介護技術を用いて、安全に援助出来る技術や知識を修得する。基本介護技術を中心とした意義や目的の理解に重点をおき現場に出ても応用できる様にする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の基本的技術を習得し、その原理を理解し、安全 安楽な生活支援の知識と技術を習得する。 2. 生活支援・自立に向けた住環境の整備、自立に向けた身支度、移動、食事、入浴清潔保持の介護の意義 目的を理解する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援技術とは 2. 生活の場の特徴 3. 生活の構成要素 4. 生活経営の考え方 5. 介護福祉士と生活支援 6. ICF の視点と生活支援：ICF に基づいた生活支援の在り方 7. 介護職と医療行為 8. 介護予防とは 9. 介護保険と介護予防 10. 生活における介護予防の視点 11. リハビリテーションの視点での生活の再構築、活性化、生活支援 12. 疾患別の特徴からみた生活の再構築、活性化 13. 生活の再構築の実際 14. 介護者への支援 15. まとめ 		
成績評価の方法	・定期試験（100%）		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・教科書を読み復習を行ってほしい。また、次回講義予定の確認及び教科書を読んでおくこと。		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 生活支援技術 I」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」（中央法規出版）		
その他 (受講生への要望等)	・視聴覚特に新聞等に目を通し介護に対して認識を深める。		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp		

授業科目名	生活支援技術 I		
担当者名	和田 悦子		
科目コード	2500023	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護を必要とする利用者に対し尊厳保持の立場から、どのような状況にあってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることを含め適切な介護技術を用いて、安全に援助出来る技術や知識を修得する。基本介護技術を中心とした意義や目的の理解に重点をおき現場に出ても応用できる様にする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の基本的技術を習得し、その原理を理解し、安全 安楽な生活支援の知識と技術を習得する。 2. 生活支援・自立に向けた住環境の整備、自立に向けた身支度、移動、食事、入浴清潔保持の介護の意義 目的を理解する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 16. 生活支援技術と福祉用具の活用、福祉用具とは 17. 代表的福祉用具の種類と機能活用する視点 18. 福祉用具、住宅改修の利用、住環境の意義 19. 居住環境の整備、意義、目的、生活空間と介護、住まいにおける工夫 20. 集団生活における工夫、快適な居住空間の条件 21.暮らしと環境問題 22. 安心して快適な生活の場作り、住まいの場における工夫 23. 集団生活の場における工夫 24. 快適な居住空間の条件 25. 他職種の役割と協働、連携の必要性、保健、医療関連職種、福祉関連職種 26. 家庭生活に関わる基本的知識、家庭生活の理解 27. 家庭生活の営み、生活設計の考え方、家計の収支・支出 28. 家庭生活の営み、食生活の基本知識 29. 被服の基本知識 30. まとめ 		
成績評価の方法	・定期試験（100%）		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・教科書を読み復習を行ってほしい。また、次回講義予定の確認及び教科書を読んでおくこと。		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 生活支援技術 I」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」（中央法規出版）		
その他 (受講生への要望等)	・視聴覚特に新聞等に目を通し介護に対して認識を深める。		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp		

授業科目名	生活支援技術 II		
担当者名	早瀬 亮子		
科目コード	2500024	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。また、介護環境の工夫や福祉機器の活用法を学び自立と健康を守る技術も習得する。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な介護の知識、技術、態度を修得し利用者の状態に応じた適切な技法を活用した支援ができる。 ・ 介護の援助に応じた福祉用具、福祉機器の活用方法が習得できる。 ・ ICF の概念に基づいたアセスメントから個々の利用者の生活活動の違いや、気づいた変化を系統的に理解する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護者の健康・利用者の健康 2. 生活支援技術における意義と目的、ICFに基づくアセスメント 3. 自立に向けた住環境の整備（意義と目的） 4. 自立に向けた住環境の整備（意義と目的） ベッドメイキング 5. 自立に向けた住環境の整備（ベッドメイキング） 6. 自立に向けた移動・移乗介護（意義と目的） ボディメカニクス 7. 自立に向けた移動・移乗介護（体位変換） ボディメカニクス 8. 自立に向けた移動・移乗介護（体位変換） 一部介助・全介助 9. 自立に向けた移動・移乗介護（意義と目的） 歩行 10. 自立に向けた移動・移乗介護（歩行・車いす） 11. 自立に向けた移動・移乗介護（車いす） 移動 12. 自立に向けた移動・移乗介護（車いす） 移乗 13. 自立に向けた衣類の交換介護（意義と目的）（前開き） 14. 自立に向けた衣類の交換介護（前開き）（かぶり） 15. 前半技術の復習チェック評価 		
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>定期試験（40%）、実技試験（30%）、レポート（20%）、授業態度（10%）</p>		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書をもとに事前及び事後の学習 ・ 授業後に次回講義の予習の説明を行います。 		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術II」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	・ 適宜資料を配布する。		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習室での演習授業のため、必ず時間厳守してください。（資料整理のためのファイルを用意） 		
教員 e-mail アドレス	hayase@hcc.ac.jp		

授業科目名	生活支援技術 II		
担当者名	早瀬 亮子		
科目コード	2500024	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。また、介護環境の工夫や福祉機器の活用法を学び自立と健康を守る技術も習得する。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な介護の知識、技術、態度を修得し利用者の状態に応じた適切な技法を活用した支援ができる。 ・ 介護の援助に応じた福祉用具、福祉機器の活用方法が習得できる。 ・ ICF の概念に基づいたアセスメントから個々の利用者の生活活動の違いや、気づいた変化を系統的に理解する。 		
授業計画	16. 前半技術の復習チェック評価 17. 自立に向けた排泄の介護（意義と目的） 18. 自立に向けた排泄の介護（おむつ） 19. 自立に向けた排泄の介護（おむつ）（ポータブルトイレ） 20. 自立に向けた排泄の介護（ポータブルトイレ）（差し込み便器） 21. 自立に向けた入浴の介護（意義と目的） 22. 自立に向けた入浴の介護（清潔について） 23. 自立に向けた入浴の介護（機械浴・一般浴）前半 24. 自立に向けた入浴の介護（機械浴・一般浴）後半 25. 自立に向けた食事の介護（意義と目的） 26. 自立に向けた食事の介護（食事の実際） 27. 自立に向けた食事の介護（口腔ケア） 28. 後半技術の復習チェック 29. 実技試験 30. 実技試験		
成績評価の方法	〔評価項目と割合〕 定期試験（40%）、実技試験（30%）、レポート（20%）、授業態度（10%）		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書をもとに事前及び事後の学習 ・ 授業後に次回講義の予習の説明を行います。 		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術II」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	・ 適宜資料を配布する。		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習室での演習授業のため、必ず時間厳守してください。 （資料整理のためのファイルを用意） 		
教員 e-mail アドレス	hayase@hcc.ac.jp		

授業科目名	生活支援技術 III		
担当者名	早瀬 亮子		
科目コード	2500025	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	通年（前期）
単 位 数	3	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・原理原則に基づいた技術を習得したうえで、応用技術が適切に理解できる。 ・個別及び障害に応じた技術や、潜在能力を引き出した技術が実践できる。 ・ICF の概念に基づいたアセスメントから個々の利用者の生活活動の違いや気づいた変化を系統的に理解する。 ・自立支援に必要な介護の工夫や福祉用具の活用について理解する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは 2. 高齢者・障害者の生活の理解 3. 視覚障害に応じた介護とは・生活の理解 4. 聴覚・言語障害に応じた介護とは・生活の理解 5. 運動機能障害に応じた介護とは・生活の理解① 環境整備 6. 運動機能障害に応じた介護とは・生活の理解② 介護技術の展開 7. 運動機能障害に応じた介護とは・生活の理解③ DVD 視聴（高齢者） 8. 運動機能障害に応じた介護とは・生活の理解④ DVD 視聴（障害者） 9. 内部障害に応じた介護とは・生活の理解①心臓・腎臓 10. 内部障害に応じた介護とは・生活の理解②呼吸器・膀胱、直腸 11. 知的障害に応じた介護とは・生活の理解① 12. 知的障害に応じた介護とは・生活の理解②事例からグループワーク 13. 精神障害に応じた介護とは・生活の理解① 14. 精神障害に応じた介護とは・生活の理解②事例からグループワーク 15. 前半の復習チェック 		
成績評価の方法	[評価項目と割合] 定期試験（70%）、レポート（20%）、授業態度（10%）		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書をもとに事前及び事後の学習 ・授業後に次回講義の予習の説明を行います。 		
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」（中央法規出版） ○「新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」（中央法規出版） 		
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜資料を配布する。 		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料整理のためのファイルを用意 		
教員 e-mail アドレス	hayase@hcc.ac.jp		

授業科目名	生活支援技術 III		
担当者名	早瀬 亮子		
科目コード	2500025	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	通年（前期）
単 位 数	3	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・原理原則に基づいた技術を習得したうえで、応用技術が適切にできる。 ・個別及び障害に応じた技術や、潜在能力を引き出した技術が実践できる。 ・ICF の概念に基づいたアセスメントから個々の利用者の生活活動の違いや気づいた変化を系統的に理解する。 ・自立支援に必要な介護の工夫や福祉用具の活用について理解する。 		
授業計画	16. 前半の復習チェック評価 17. 高次機能障害に応じた介護とは・生活の理解 18. 発達障害に応じた介護とは・生活の理解 19. 障害に応じた介護とは・生活の理解 移動（麻痺のある利用者） 20. 障害に応じた介護とは・生活の理解 移動・移乗の一連の流れ 21. 障害に応じた介護とは・生活の理解 着脱（麻痺のある利用者） 22. 障害に応じた介護とは・生活の理解 着脱（座位・ベッド上）一連の流れ 23. 障害に応じた介護とは・生活の理解⑤ 排泄（麻痺のある利用者） 24. 障害に応じた介護とは・生活の理解⑥ 排泄の一連の流れ 25. 障害に応じた介護とは・生活の理解⑦ 清潔（手浴・足浴） 26. 障害に応じた介護とは・生活の理解⑧ 清潔（洗身・洗髪について） 27. 後半技術の復習チェック① 28. 後半技術の復習チェック② 29. 実技試験 30. 実技試験		
成績評価の方法	[評価項目と割合] 定期試験（40%）、実技試験（30%）、レポート（20%）、授業態度（10%）		
授業外で行うべき学修 （準備学修・事後学修等）	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書をもとに事前及び事後の学習 ・授業後に次回講義の予習の説明を行います。 		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」（中央法規出版） ○「新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜資料を配布する。 		
その他 （受講生への要望等）	<ul style="list-style-type: none"> ・実習室での演習授業のため、必ず時間厳守してください。 （資料整理のためのファイルを用意） 		
教員 e-mail アドレス	hayase@hcc.ac.jp		

授業科目名	生活支援技術 III		
担当者名	早瀬 亮子		
科目コード	2500025	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	通年（後期）
単 位 数	3	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・原理原則に基づいた技術を習得したうえで、応用技術が適切にできる。 ・個別及び障害に応じた技術や、潜在能力を引き出した技術が実践できる。 ・ICF の概念に基づいたアセスメントから個々の利用者の生活活動の違いや気づいた変化を系統的に理解する。 ・自立支援に必要な介護の工夫や福祉用具の活用について理解する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観察とアセスメント①生活状態の観察 2. 観察とアセスメント②健康状態の観察 3. 認知症に応じた介護とは・生活の理解① 介護の基本理解 4. 認知症に応じた介護とは・生活の理解② 事例 5. 認知症に応じた介護とは・生活の理解③ グループワーク 6. 認知症に応じた介護とは・生活の理解④ グループワーク・発表 7. DVD 視聴：高齢者について 8. 障害に応じた介護① ICF 活用（麻痺のある利用者）事例 9. 障害に応じた介護② ICF 活用（施設）事例 10. 障害に応じた介護③ ICF 活用（在宅）事例 11. 事例：ロールプレイ 12. 事例：ロールプレイ・発表 13. 介護技術のまとめ 14. 介護の総括 15. まとめ 		
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>定期試験（70%）、レポート（20%）、授業態度（10%）</p>		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書をもとに事前及び事後の学習 		
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」（中央法規出版） ○「新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」（中央法規出版） 		
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜資料配布する。 		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料整理のためのファイルを用意 		
教員 e-mail アドレス	hayase@hcc.ac.jp		

授業科目名	形態別介護技術（点字）		
担当者名	尾形 満歳		
科目コード	2500008	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	通年（全 15 回）
単 位 数	1	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	視覚障害の文字である点字の必要性和特性について学び、基礎から応用へと段階的に学習を進める。授業の後半ではパソコンを利用しての点字入力方法を学び、情報機器の進歩を知る。また、視覚障害疑似体験による歩行や日常生活動作の演習をすることで、視覚障害者への理解を深める。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 点字及び点訳の知識と技術を習得し、初歩的な点字の読み書きができるようになり、視覚障害者のコミュニケーションの手段の一つである点字の必要性和特性を理解する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害者とコミュニケーション…視覚障害者の特性や点字の必要性について 2. 点字表記法①…点字の基礎、50音 3. 点字表記法②…点字の基礎、濁音、半濁音 4. 点字表記法③…点字の構成や分かち書き（数字、アルファベット） 5. 点字表記法④…点字の構成や分かち書き（かぎカッコなどの記号類） 6. 演習①……………視覚障害疑似体験（歩行） 7. 演習②……………視覚障害疑似体験（弱視の日常生活動作） 8. 点字表記法⑤…点字の構成や分かち書き（文字、英数の混じり文） 9. 点字表記法⑥…前回までの表記法を利用し、文章を書く 10. パソコンを利用した点訳①…点訳ソフトの基礎 11. パソコンを利用した点訳②…パソコン6点入力での文章作成 12. パソコンを利用した点訳③…点訳本の作成（見出し、レイアウト） 13. 演習③……………地図や絵等の触図を作成する 14. パソコンを利用した点訳④…点訳本の作成（本文の行移動、目次） 15. パソコンを利用した点訳⑤…点訳本の作成（点訳本課題の講評、まとめ） 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の授業態度や課題（30%）、レポート提出（20%）、定期試験（50%）を目安として評価します。 		
授業外で行うべき学修（準備学修・事後学修等）	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間を積み重ねて理解していく学習なので、前回までの復習をして講義を受けること。また、視覚障害者の立場になって想像し、考えながら課題に取り組むこと。 		
使用テキスト	○「初めての点訳 [第二版]」（全国視覚障害情報提供施設協会編集・発行）		
参考書（参考資料等）	特になし		
その他（受講生への要望等）	<ul style="list-style-type: none"> 講義の日程等については、オリエンテーション時に説明します。 		
教員 e-mail アドレス	oga41mitsu@yahoo.co.jp		

授業科目名	福祉住環境論		
担当者名	吉田 大輔		
科目コード	2500009	授業形態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	多様な障害を持つ者の生活環境についての理解を深める。その理解をもとに、障がい者に対する具体的な生活環境支援の在り方等について学習する。		
授業の到達目標	・ 在宅環境の整備、構築という観点から、障害者や高齢者に対する生活支援の具体策を提示できる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（福祉住環境コーディネーターとは） 2. 在宅における環境整備の基礎 3. 生活行為別にみた福祉用具の活用（起居・就寝） 4. 生活行為別にみた福祉用具の活用（移動） 5. 生活行為別にみた福祉用具の活用（排泄、入浴、その他） 6. 福祉住環境整備の基本技術（段差、床材） 7. 福祉住環境整備の基本技術（手すり、建具、スペース） 8. 福祉住環境整備の基本技術（その他） 9. 生活行為別福祉住環境整備の手法（外出、屋内移動） 10. 生活行為別福祉住環境整備の手法（排泄、入浴、更衣） 11. 生活行為別福祉住環境整備の手法（調理、食事、就寝） 12. 福祉用具の特性を発表する（起居・就寝編） 13. 福祉用具の特性を発表する（移動編） 14. 福祉用具の特性を発表する（排泄・入浴編） 15. 総まとめ 		
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>授業態度（20%）と定期試験（80%）で総合的に評価する。</p>		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・ 演習課題は授業外の時間を利用して完成させること。		
使用テキスト	○「福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト〔改訂4版〕」 (東京商工会議所)		
参考書(参考資料等)	・ 特になし(適宜、資料を配布する)		
その他 (受講生への要望等)	・ 福祉住環境コーディネーター2級の取得を目指す学生はぜひ受講してください。 また、“介護・福祉機器展”への自主的な参加を強く勧めます。		
教員 e-mail アドレス	yoshida.d@knwu.ac.jp		

授業科目名	家事の介護		
担当者名	和田 悦子		
科目コード	2500010	授業形態	講義・演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	利用者が生活を継続して行く為には家事に関する支援は必要不可欠。 調理、掃除買い物等日常的な家事の手段を通じて、利用者を主体とした生活の維持、再構築の視点、具体的な方法、家事支援や地域サービスの活用の仕方を学ぶ		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の自立、自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた適切な介護技術を修得し自立に向けた家事の介護を具体化するための知識、技術を身に付ける。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家事支援の意義 目的 2. 自立生活を支える意義 目的 3. 家事支援におけるアセスメント 4. 家事支援における介護技術 調理 洗濯 掃除 裁縫 5. 被服実習 ふきん（刺し子） 三角巾 6. 被服実習 ふきん（刺し子） 三角巾 仕上げ 7. 8. 9. 10. 11. 梅林担当講義 12. 13. 14. 15. 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・被服実習及び作品（20%）、定期試験（80%） 上記割合にて評価し、担当教員で総合的に判断する。		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活はあまり意識されずに日々流れていきます。 身の回りに意識して関心を持つように配慮した生活をしてください。 		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 生活支援技術 I」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」（中央法規出版）		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボタン付け 雑巾等を縫う。 		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp		

授業科目名	家事の介護		
担当者名	梅林 千恵子		
科目コード	2500010	授業形態	講義・演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	人間が健康な生活を営むために必要な五大栄養素の働きを理解した上で、高齢者の身体的特徴を考慮しながら、QOLの低下を予防あるいは遅延させる方法を学ぶ。その基本には日々の食事内容が深く関わっていることを認識し、ふさわしい食事形態を学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 五大栄養素の働きやバランスのとれた食事について理解できる。 2. 基本的な調理操作ができる。 3. 高齢者にふさわしい食事形態が理解できる。 4. 安全で衛生的に調理操作ができる。 5. 嚥下困難者に対する調理法が実践できる 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 和田担当講義 4. 5. 6. 7. 講義 五大栄養素とその働き、バランスのとれた食事、調理の基本 8. 講義 家庭でできる食中毒予防、高齢者の身体変化 9. 実習 基本的な調理① 一般食 煮魚 10. 実習 基本的な調理② 一般食 味付けご飯 11. 実習 基本的な調理③ 軟菜食 くずたたき 12. 実習 基本的な調理④ 軟菜食 煮込み野菜 13. 実習 基本的な調理⑤ 軟菜食 そぼろあんかけ 14. 実習 基本的な調理⑥ 軟菜食 とろろ汁 15. 実習 基本的な調理⑦ お楽しみメニュー 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート提出と定期試験を行い担当教員で総合的に評価する。 レポート（20%）、定期試験（80%） 		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にふさわしい食事形態を考え、レポートにまとめて提出。 		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 生活支援技術 I」(中央法規出版)		
参考書(参考資料等)	特になし		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・軟菜食を試食することにより、高齢者の立場に立った食事を考えられる人になってください。 		
教員 e-mail アドレス	umebayashi@hcc.ac.jp		

授業科目名	介護過程 I		
担当者名	早瀬 亮子		
科目コード	2500026	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	6	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護過程では、専門的知識・技術を統合し科学的思考過程に基づいた展開について理解し、利用者の望む生活の実現を支援するため課題と解決について、アセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価、多職種協働によるチームアプローチの必要性について習得する。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の意義が理解でき一連の過程を説明できる。 ・社会資源を活用し、介護、医療、保健との連携協働を活かした介護実践計画を展開できる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程の意義 2. 介護過程の展開・介護過程とは 3. 適切な介護とは 4. 目標・目的を持つことの意義について 5. 介護過程の展開① 情報収集について 6. 介護過程の展開② 情報収集の留意点について 7. 介護過程の展開③ 情報収集とアセスメント 8. 介護過程の展開④ アセスメントの実際 9. 事例から基本情報の作成① 記録用紙の書き方 10. 事例から基本情報の作成② 事例を活用した記録用紙の書き方 11. 介護過程の展開⑤ 生活支援の課題・目標の捉え方について 12. 介護過程の展開⑥ 生活支援の課題・目標の捉え方の実際 13. 介護過程の展開⑦ 介護計画について 14. 介護過程の展開⑧ 介護計画の作成について 15. 介護過程の展開⑨ 介護計画の作成の実際 		
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>定期試験（60%）、レポート（30%）、授業態度（10%）の割合で総合的に判断をする。</p>		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書をもとに事前及び事後の学習 		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 9 介護過程 [第3版]」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜資料を配布する。 ・授業の中で適宜紹介する。 		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ファイルを作成すること。 ・提出物は期日を守ること。 		
教員 e-mail アドレス	hayase@hcc.ac.jp		

授業科目名	介護過程 I		
担当者名	早瀬 亮子		
科目コード	2500026	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	6	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護過程では、専門的知識・技術を統合し科学的思考過程に基づいた展開について理解し、利用者の望む生活の実現を支援するため課題と解決について、アセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価、多職種協働によるチームアプローチの必要性について習得する。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の意義が理解でき一連の過程を説明できる。 ・社会資源を活用し、介護、医療、保健との連携協働を活かした介護実践計画を展開できる。 		
授業計画	16. 介護サービスについて① 介護保険制度によるサービス（施設） 17. 介護サービスについて② 介護保険制度によるサービス（在宅） 18. 介護過程の実践的展開① 日常生活のアセスメント 19. 介護過程の実践的展開② 日常生活のアセスメントまとめ 20. 個別援助計画の立案とは 21. 個別援助計画の立案 事例①（施設）日常生活動作に支障のある利用者 22. 個別援助計画の立案 事例① 23. 個別援助計画の立案 事例① 発表 24. 個別援助計画の立案 事例②（施設）認知症の利用者 25. 個別援助計画の立案 事例② 26. 個別援助計画の立案 事例② 発表 27. 介護計画の実施準備 支援内容・方法 28. 介護計画の実施の際の留意点 29. 介護計画の実施の記録について① 30. 介護計画の実施の記録②		
成績評価の方法	[評価項目と割合] 定期試験（60%）、レポート（30%）、授業態度（10%）の割合で総合的に判断をする。		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書をもとに事前及び事後の学習 		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 9 介護過程 [第3版]」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜資料を配布する。 ・授業の中で適宜紹介する。 		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ファイルを作成すること。 ・提出物は期日を守ること。 		
教員 e-mail アドレス	hayase@hcc.ac.jp		

授業科目名	介護過程 I		
担当者名	早瀬 亮子		
科目コード	2500026	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	6	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護過程では、専門的知識・技術を統合し科学的思考過程に基づいた展開について理解し、利用者の望む生活の実現を支援するため課題と解決について、アセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価、多職種協働によるチームアプローチの必要性について習得する。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の意義が理解でき一連の過程を説明できる。 ・社会資源を活用し、介護、医療、保健との連携協働を活かした介護実践計画を展開できる。 		
授業計画	31. 介護過程の展開⑩ 評価の目的や内容・方法について 32. 介護過程の展開⑪ 評価の留意点 33. 事例①②の評価 34. 事例①②の評価をまとめる 35. 介護過程の実践的展開 事例 (A) 施設 36. 介護過程の実践的展開 事例 展開 37. 介護過程の実践的展開 事例 まとめ 38. 介護過程の実践的展開 事例 (B) 施設 39. 介護過程の実践的展開 事例 展開 40. 介護過程の実践的展開 事例 まとめ 41. 介護過程の実践的展開 事例 (C) 在宅 42. 介護過程の実践的展開 事例 展開 43. 介護過程の実践的展開 事例 まとめ 44. 振り返り 45. まとめ		
成績評価の方法	[評価項目と割合] 定期試験 (60%)、レポート (30%)、授業態度 (10%) の割合で総合的に判断をする。		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書をもとに事前及び事後の学習 		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 9 介護過程 [第3版]」(中央法規出版)		
参考書 (参考資料等)	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜資料を配布する。 ・授業の中で適宜紹介する。 		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ファイルを作成すること。 ・提出物は期日を守ること。 		
教員 e-mail アドレス	hayase@hcc.ac.jp		

授業科目名	介護過程 II		
担当者名	早瀬 亮子		
科目コード	2500027	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	4	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護過程を学ぶ最終段階として、利用者のニーズに沿った介護ができるよう介護過程の理論と実習体験を関連づける。また、ICFを取り入れた介護過程における評価の視点を学ぶ。チームアプローチの重要性と介護福祉士として求められる専門性の自覚、専門職としてのアイデンティティの確立を目指す。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の意義が理解でき一連の過程を説明できる。 ・社会資源を活用し、介護、医療、保健との連携協働を活かした介護実践計画を展開できる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の振り返り 2. 実習の振り返りのまとめ 3. 実習事例から介護過程の展開 ①情報 4. " ②アセスメント 5. " ③アセスメントまとめ 6. " ④介護計画 7. " ⑤介護計画まとめ 8. " ⑥介護過程の展開 (ICF とは) 9. " ⑦介護過程の展開 (ICF の活用方法) 10. " ⑧介護過程の展開 まとめ 11. 事例の発表① 12. 事例の発表② 13. チームアプローチの実際 14. チームアプローチにおける介護福祉士の役割 15. 実習IIに向けて記録の準備 		
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>介護過程記録集提出 (50%)、レポート (50%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習における介護実践の取り組みや内容も総合的に判断をする。 		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習での実践内容を必ず記録し、メモについても残しておくこと。 		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座 9 介護過程 [第3版]」(中央法規出版)		
参考書 (参考資料等)	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜資を配布する。 ・授業の中で適宜紹介する。 		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ファイルを作成すること。 ・提出物は期日を守ること。 		
教員 e-mail アドレス	hayase@hcc.ac.jp		

授業科目名	介護過程 II		
担当者名	早瀬 亮子		
科目コード	2500027	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	4	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護過程を学ぶ最終段階として、利用者のニーズに沿った介護ができるよう介護過程の理論と実習体験を関連づける。また、ICFを取り入れた介護過程における評価の視点を学ぶ。チームアプローチの重要性と介護福祉士として求められる専門性の自覚、専門職としてのアイデンティティの確立を目指す。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の意義が理解でき一連の過程を説明できる。 ・社会資源を活用し、介護、医療、保健との連携協働を活かした介護実践計画を展開できる。 		
授業計画	16. 実習IIに向けて 記録の準備・説明 17. " 記録の実際 18. " 記録のまとめ 19. 介護福祉士とは 20. 介護福祉士とは 介護福祉士像 21. 尊厳あるケア 22. 施設ターミナルケア 23. 在宅ターミナルケア 24. 実習事例記録まとめ 1回目 25. " 2回目（確認提出） 26. " 3回目 27. " 4回目（提出） 28. 実習事例発表 1回目 29. " 2回目 30. まとめ		
成績評価の方法	[評価項目と割合] 介護過程記録集提出（50%）、レポート（50%） ・実習における介護実践の取り組みや内容も総合的に判断をする。		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・実習での実践内容を必ず記録し、メモについても残しておくこと。		
使用テキスト	○「新・介護福祉士養成講座9 介護過程 [第3版]」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜資料を配布する。 ・授業の中で適宜紹介する。 		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ファイルを作成すること。 ・提出物は期日を守ること。 		
教員 e-mail アドレス	hayase@hcc.ac.jp		

授業科目名	介護総合演習 介護実習 I		
担当者名	和田 悦子		
科目コード	2500028	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	<p>介護の拠点となる知識や技術の基本を理論的に学ぶ。知識や技術の基本を踏まえて学内で実際に取り組む。最先端の現場に出かけて、学校で学んだ事や身に付けた技術を実践し、自分自身の力量を試し、振り返り、学習課題をつかむ。各段階・各種別の介護実習の前後に配置され、実習ごとの準備や振り返りが出来る。介護実習とほかの各科目との連携を意識することにより他職種協働の重要性・必要性を意識し、体験していく指導を行う。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者介護に必要な整容、言葉使い等必要知識を身に付ける。 2. 生活支援の幅の広さを体験し、そこで働く関連職種との連携、利用者や家族との関わり合い、又利用者が安心して暮らしていく為どのような支援が出来るか等を、実習をすることで理解出来る。 3. 実習記録の書き方が理解できる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護総合演習で何を学ぶか：介護実習の指導、他科目での学びの統合性 2. なぜ介護実習が必要なのか：介護実習の主な流れ 3. 介護実習の種類 4. 介護実習 I の目的と内容 5. 介護実習前に何を学ぶか：介護実習での学びをどの様に活かすか 6. 事前学習の意義と目的：介護実習開始までの流れと事前学習 7. 介護実習記録の書き方 8. 実習先の特徴と学ぶべきポイント 9. 訪問介護 10. 通所介護 11. グループホーム 12. 重症心身障害者施設 13. 障害者支援施設 14. ケアハウス 15. まとめ 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の実習評価（70%）、提出物（30%） 		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前の事前指導の参加 ・施設オリエンテーションには必ず参加報告書提出 ・実習記録の提出日厳守 ・実習に相応しい服装、髪型、化粧である事 		
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習」（中央法規出版） ○「実習の手引き」東筑紫短期大学専攻科 		
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」（中央法規出版） 		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣に高齢者施設や事業所があれば見学させてもらい高齢者の生活を理解する。 ・新聞等に常に目を通す習慣を身に付け介護問題や世の中の情勢の移り変わりを意識する。 		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp		

授業科目名	介護総合演習 介護実習 II		
担当者名	和田 悦子		
科目コード	2500029	授業形態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	<p>介護の拠点となる知識や技術の基本を理論的に学ぶ。知識や技術の基本を踏まえて学内で実際に取り組む。最先端の現場に出かけて、学校で学んだ事や身に付けた技術を実践し、自分自身の力量を試し、振り返り、学習課題をつかむ。各段階・各種別の介護実習の前後に配置され、実習ごとの準備や振り返りが出来る。介護実習とほかの各科目との連携を意識することにより他職種協働の重要性・必要性を意識し、体験していく指導を行う。</p>		
授業の到達目標	<p>高齢者介護に必要な整容、言葉使い等必要知識を身に付ける。生活支援の幅の広さを体験し、そこで働く関連職種との連携、利用者や家族との関わり合い、又利用者が安心して暮らしていく為どのような支援が出来るか等を、実習をすることで理解が出来る。実習記録の書き方が理解できる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉施設の特徴とポイント：介護実習IIのねらい 2. 介護老人福祉施設 3. 介護老人保健施設 4. 観察、コミュニケーション 記録類を通じて介護に必要な情報が収集できる 5. 1つひとつの情報の持つ意味を解釈し、情報同士の関連づけができる 6. 利用者にとっての優先順位を考え、生活課題が明確に出来る 7. 利用者の安全性、快適さ、自立に配慮した介護が実践できる 8. 介護目標が達成できたかの評価ができる 9. 具体的な援助の方法が適切であったかの判断が出来る 10. 研究課題についての内容を理解する 11. 研究課題に取り組むにあたり施設内での情報収集の仕方について 12. 収集した情報の整理について 13. 介護実習IIの実習報告 14. 研究課題発表会 15. まとめ 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の実習評価（70%）、提出物（30%） 		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前の事前指導の参加 ・施設オリエンテーションには必ず参加報告書提出 ・実習記録の提出日厳守 ・実習に相応しい服装、髪型、化粧である事 		
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習」（中央法規出版） ○「実習の手引き」東筑紫短期大学専攻科 		
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」（中央法規出版） 		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣に高齢者施設や事業所があれば見学させてもらい高齢者の生活を理解する。 ・新聞等に常に目を通す習慣を身に付け介護問題や世の中の情勢の移り変わりを意識する。 		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp		

授業科目名	介護実習 I - A		
担当者名	和田 悦子 ・ 早瀬 亮子		
科目コード	2500015	授業形態	実習 [7月下旬(5日間)]
学 年	1	開 講 期	通年
単 位 数	3	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	多様な介護サービスに対応できる介護福祉士の養成という観点から 3 グループに分けた施設に 5 日間介護現場を体験する。 利用者のさまざまな暮らしの場を理解する。利用者に出会い、思いやりに触れる。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設、事業所等の概要、機能を理解する。 2. 介護実習の意義を体験的に理解する。 3. 生活されている様々な利用者を理解する。 4. 利用者はもちろん家族ともコミュニケーションを図ってみる。 		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護実習 I - A ・ 訪問介護、通所介護、デイケアから 1 つ選択し、実習を行う。 ・ 実習期間中介護実習担当教員が分担し訪問を行い、記録等の指導を行う。 ・ 施設の実習担当者と連絡を取り実習期間中で不備等が無いのか、確認する。 ・ 実習報告会を行い次回への実習に繋げる。 		
成績評価の方法	[評価項目と割合] 各施設の実習評価 (70%)、提出物 (30%)		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前指導の参加 ・ 施設オリエンテーションには参加報告書提出 ・ 実習記録の提出日厳守 ・ 実習に相応しい服装、髪型、化粧であること 		
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習」(中央法規出版) ○ 「実習の手引き」東筑紫短期大学専攻科 		
参考書(参考資料等)	○ 「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」 (中央法規出版)		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣に高齢者施設や事業所があれば見学させてもらい、高齢者の生活を理解する。 ・ 新聞等に常に目を通す習慣を身に付け、介護問題、世の中の情勢の移り変わりを意識する。 ・ 実習に行く前、必ず自分が行く施設、事業所の確認を行う。 		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp (和田)、hayase@hcc.ac.jp (早瀬)		

授業科目名	介護実習 I - B		
担当者名	和田 悦子 ・ 早瀬 亮子		
科目コード	2500015	授業形態	実習 [8月下旬(5日間)]
学 年	1	開 講 期	通年
単 位 数	3	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	多様な介護サービスに対応できる介護福祉士の養成という観点から3グループに分けた施設に5日間介護現場を体験する。 利用者のさまざまな暮らしの場を理解する。利用者に出会い、思いやりに触れる。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設 事業所等の概要 機能を理解する。 2. 介護実習の意義を体験的に理解する。 3. 生活されている様々な利用者を理解する。 4. 利用者はもちろん家族ともコミュニケーションを図ってみる。 		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護実習 I - B ・ 身体障害者施設、重症心身障害者施設、知的障害者更生施設 より選択し実習を行う。 ・ 実習期間中、介護実習担当者が分担し訪問を行い、記録等の指導を行う。 ・ 施設の実習担当者と連絡を取り、実習期間中で不備等が無いかが、確認する。 ・ 実習報告会を行い次回への実習に繋げる。 		
成績評価の方法	・ 各施設の実習評価（70%）、提出物（30%）		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前指導の参加 ・ 施設オリエンテーションには参加報告書提出 ・ 実習記録の提出日厳守 ・ 実習に相応しい服装、髪型、化粧であること 		
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習」（中央法規出版） ○「実習の手引き」東筑紫短期大学専攻科 		
参考書（参考資料等）	○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」（中央法規出版）		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣に高齢者施設や事業所があれば見学させてもらい、高齢者の生活を理解する。 ・ 新聞等に常に目を通す習慣を身に付け介護問題、世の中の情勢の移り変わりを意識する。 ・ 実習に行く前、必ず自分が行く施設、事業所の確認を行う。 		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp（和田）、hayase@hcc.ac.jp（早瀬）		

授業科目名	介護実習 I - C		
担当者名	和田 悦子 ・ 早瀬 亮子		
科目コード	2500015	授業形態	実習 [9月下旬(5日間)]
学 年	1	開 講 期	通年
単 位 数	3	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	多様な介護サービスに対応できる介護福祉士の養成という観点から 3 グループに分けた施設に 5 日間介護現場を体験する。 利用者のさまざまな暮らしの場を理解する。利用者に出会い、思いやりに触れる。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設 事業所等の概要 機能を理解する。 2. 介護実習の意義を体験的に理解する。 3. 生活されている様々な利用者を理解する。 4. 利用者はもちろん家族ともコミュニケーションを図ってみる。 		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護実習 I - C ・ ケアハウス グループホームの中から 1 施設を選択し実習を行う。 ・ 実習期間中介護実習担当教員が分担し訪問を行い、記録等の指導を行う。 ・ 施設の実習担当者と連絡を取り、実習期間中で不備等が無いかな確認する。 ・ 実習報告会を行い次回への実習に繋げる。 		
成績評価の方法	・ 各施設の実習評価（70%）、提出物（30%）		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前指導の参加 ・ 施設オリエンテーションには参加報告書提出 ・ 実習記録の提出日厳守 ・ 実習に相応しい服装、髪型、化粧であること 		
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習」(中央法規出版) ○「実習の手引き」東筑紫短期大学専攻科 		
参考書(参考資料等)	○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」 (中央法規出版)		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣に高齢者施設や事業所があれば見学させてもらい、高齢者の生活を理解する。 ・ 新聞等に常に目を通す習慣を身に付け介護問題、世の中の情勢の移り変わりを意識する。 ・ 実習に行く前、必ず自分が行く施設、事業所の確認を行う。 		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp (和田)、hayase@hcc.ac.jp (早瀬)		

授業科目名	介護実習 II		
担当者名	和田 悦子 ・ 早瀬 亮子		
科目コード	2500016	授業形態	実習 [(11月～12月) (20日間)]
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	4	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	あらゆる利用者のニーズに応えられるように、修得した理論に基づく技術や知識を用い、利用者に最も適切な方法で介護行為の実践 介護者に対して介護に関する指導が実践出来ること。また、人との関わり方や問題、課題に対する解決方法を体得することを目的とする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 つの施設において、一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画を作成し、実習後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践する。 介護実習 II では研究課題に取り組み発表する機会を設ける。(自分で4回の実習を通して課題を見つけ論文形式に仕上げる) 		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 介護実習 II では11月から12月にかけて介護実習（施設実習）実施することになっている。 指定する介護老人福祉施設、介護老人保健施設の中から1施設を選択し、20日間の実習を行う。(1日6時間×5日間×4週間=120時間) 3回行った実習（介護実習 I -A-B-C）をさらに奥深いものにするために各個人が研究課題に取り組む。 1月下旬日時発表日を設けて各個人6分の予定で発表する。 実習期間中は実習担当者が1週間に1回の割合で訪問指導を行う。 訪問指導を行うことにより実習担当者との連携を図りより充実した内容の実習にする。 研究課題 介護過程での質問等を受け一歩踏み込んだ実習にすることにより専門職の意識づけをより深いものにする。 		
成績評価の方法	[評価項目と割合] 施設実習評価表（80%）、提出物（20%）		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・介護施設等を事前に調べ施設の機能を理解し実習に備える。		
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習」（中央法規出版） ○「実習の手引き」東筑紫短期大学専攻科 		
参考書（参考資料等）	○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」（中央法規出版）		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞等に常に目を通す習慣を身に付け介護問題、世の中の情勢の移り変わりを意識する。 ・実習に行く前、必ず自分が行く施設、事業所の確認を行う 		
教員 e-mail アドレス	wada@hcc.ac.jp（和田）、hayase@hcc.ac.jp（早瀬）		

授業科目名	発達と老化の理解		
担当者名	奥川 満子		
科目コード	2500017	授業形態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	<p>介護サービスを提供するに際して、利用者の人格の尊厳と自立への尊厳の意味の理解を深める。また、発達と老化の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎知識を修得し、高齢者に多い症状・疾病等の支援のあり方について学ぶことを目的とする。</p> <p>授業は、講義を中心とし、グループワークを通し、高齢者の理解を深めていく。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の成長と発達の基礎的知識を理解することができる。 2. 老化に伴うこころとからだの変化について理解することができる。 3. 老年期の発達と成熟について理解できる。 4. 老化が及ぼす日常生活への影響を具体的な実践に結び付けて理解できる 5. 高齢者の健康について、実践や事例を通して学び、実践できるようになる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の成長と発達 発達の定義・発達段階 2. 人間の成長と発達 発達課題：グループワーク 3. DVD 観賞 「老いとは」感想をレポート 4. 老年期の発達と成熟 定義・発達課題 5. 老年期の発達と成熟 老人福祉 6. 老年期の発達課題 人格と尊厳 7. 老年期の発達課題 老いの価値、喪失体験、セクシュアリティ 8. 老化に伴う心身の変化の特徴 防御反応（反射神経）の変化、適応力の変化 9. 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 10. 社会や家庭での役割を失う高齢者の気持ち：グループワーク 11. 老化を受け止める高齢者の気持ち：グループワーク 12. 高齢者の心理と生活上の留意点：高齢者の症状の現れかたの特徴 13. 高齢者に多い病気ととそ日常生活上の留意点 14. 保健医療職とその連携について 15. まとめ 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート及び授業への取り組み（20%）、定期試験（80%）等を踏まえて総合的に評価する。定期試験を最も重視する。 		
授業外で行うべき学修（準備学修・事後学修等）	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの課題は、事前にレポートで宿題とします。ゆえに、レポートの提出期限は守って下さい。 		
使用テキスト	○介護福祉士養成編集委員会「発達と老化の理解 [第3版]」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	・授業の中で参考書や文献を紹介する。		
その他（受講生への要望等）	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の計画は、授業のガイドラインです。授業の進行状況により変更する場合があります。 ・授業で分からなかった点や質問がある場合は、メールでも受け付けます。但し、提出物は受け付けません。 <p>※課題提出について：当日欠席者も、必ず提出すること。</p>		
教員 e-mail アドレス	mokgawa@hcc.ac.jp		

授業科目名	認知症の理解		
担当者名	奥川 満子		
科目コード	2500018	授業形態	講義
学 年	1	開 講 期	通年（前期）
単 位 数	4	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	<p>認知症の人が急増を続ける時代となり、在宅や高齢者施設などでも認知症の人が大勢暮らすようになってきている。そこで、認知症ケアの理念を理解するとともに、認知症に関する基礎的知識を習得しながら認知症の人とのかかわり・支援のあり方について学ぶことができる。</p> <p>授業は、講義やグループワーク、DVD を使用し、認知症に対する知識を深める。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症を取り巻く歴史的、社会的状況の取り組みの経過を踏まえ、認知症ケアの理念を理解できる 2. 医学的側面から見た認知症の基礎的知識について理解できる。 3. 認知症に伴うこころとからだの変化を具体的に学び、観察力を養うことができる。 4. 認知症の人に対する介護の基本を学び、介護実践力を培うことができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの歴史 2. 認知症ケアの理念と視点 認知症についてグループワーク 3. 認知症高齢者の現状と今後の数の推移 4. 認知症に対する行政の方針と政策 5. 認知症の人の体験の理解 グループワーク 6. 老化のしくみ 加齢に伴う身体機能の変化 7. 認知症と生理的なもの忘れ 8. 認知症の基礎知識(1) 認知症とは 認知症の症状(中核症状・周辺症状) 9. 認知症の基礎知識(2) 認知症の診断 10. 認知症の基礎知識(3) 認知症の原因疾患 11. 認知症の基礎知識(4) 認知症で行われる検査の実際 12. 認知症の基礎知識(5) 認知症の治療 13. 認知症の基礎知識(6) 認知症の予防 14. 認知症の人の行動・心理症状 グループワーク 15. まとめ 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート及び授業への取り組み（20%）、定期試験（80%）等を踏まえて、総合的に評価する。定期試験を最も重視する。 		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークへの課題は、事前にレポートで宿題とします。提出期限を守って下さい。 		
使用テキスト	○介護福祉士養成講座編集委員会 「認知症の理解 [第3版]」(中央法規出版)		
参考書(参考資料等)	・参考書や参考資料、プリント等は適宜紹介・配布します。		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の計画は、授業のガイドラインです。授業の進行状況により変更する場合があります。 ・授業で分からなかった点や質問がある場合は、メールでも受け付けます。但し、提出物は受け付けません。 <p>※課題提出について：当日欠席者も、必ず提出すること。</p>		
教員 e-mail アドレス	mokgawa@hcc.ac.jp		

授業科目名	認知症の理解		
担当者名	奥川 満子		
科目コード	2500018	授業形態	講義
学 年	1	開 講 期	通年（後期）
単 位 数	4	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	<p>認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を習得することを目的とする。</p> <p>授業は、講義を中心とし、グループワークなどで利用者への対応のあり方を学ぶ。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学的側面から見た認知症の基礎的知識について理解できる。 2. 認知症に伴うこころとからだの変化を具体的に学び、介護に役立てることができる。 3. 認知症の人に対する介護の基本を学び、介護実践力を培うことができる。 4. 認知症に関する制度や地域におけるサポート体制等について学び、理解することができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の原因となる主な病気の症状の特徴： アルツハイマー病、レビー小体病、脳血管性疾患 2. 若年性認知症 3. 病院で行われる検査、治療の実際 4. 認知症の人の特徴的心理・行動 5. 認知症の人へのかかわりの基本 ロールプレイング 6. 認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響…グループワーク 7. 地域におけるサポート体制 8. 地域におけるボランティアや認知症サポーターの役割・機能 9. 家族の認知症の受容の過程での援助 10. 家族の介護力の評価とレスパイとケアの必要性 11. 認知症の人の人権擁護(1) 成年後見制度 12. 認知症の人の人権擁護(2) 認知症と高齢者虐待 13. 居住地の介護認定申請方法の実際と介護保険サービス内容の調査 14. DVD 観賞 「認知症の人といっしょに生きる」感想をレポートする 15. まとめ 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート及び授業への取り組み（20%）、定期試験（80%）等を踏まえて、総合的に評価する。定期試験を最も重視する。 		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークへの課題は、事前にレポートで宿題とします。提出期限を守って下さい。 		
使用テキスト	○介護福祉士養成講座編集委員会 「認知症の理解 [第3版]」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	・参考書や参考資料、プリント等は適宜紹介・配布します。		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の計画は、授業のガイドラインです。授業の進行状況により変更する場合があります。 ・授業で分からなかった点や質問がある場合は、メールでも受け付けます。但し、提出物は受け付けません。 <p>※課題提出について：当日欠席者も、必ず提出すること。</p>		
教員 e-mail アドレス	mokgawa@hcc.ac.jp		

授業科目名	障害の理解		
担当者名	早瀬 亮子		
科目コード	2500019	授業形態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を習得する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念や障害に関する法的・医学的知識（障害の種類・原因・特性）を理解する。 2. 各々の障害の特徴を捉え、介護上の留意点を列举できる。 3. 障害が及ぼす心理的影響や障害の受容過程に配慮した生活支援を介護実践に繋げることができる。 4. 家族支援・関連職種とのチームアプローチのあり方、また地域におけるサポート体制について列举できる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念 2. 障害者福祉の基本理念 3. 障害者を取り巻く状況・生活の理解 4. 障害のある人の生活の理解（視覚障害） 5. 障害のある人の生活の理解（聴覚・言語・重複障害） 6. 障害のある人の生活の理解（肢体不自由①） 7. 障害のある人の生活の理解（肢体不自由②） 8. 障害のある人の生活の理解（内部障害①） 9. 障害のある人の生活の理解（内部障害②） 10. 障害のある人の生活の理解（発達・知的障害） 11. 障害のある人の生活の理解（精神障害） 12. 障害のある人の生活の理解（高次機能障害・難病） 13. 社会資源と居住環境 14. 家族への支援 15. 連携と協働（チームアプローチ・地域でのサポート体制） 		
成績評価の方法	<p>〔評価項目と割合〕</p> <p>定期試験（80%）、レポート（10%）、授業態度（10%）の割合で総合的に評価する。</p>		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・教科書をもとに事前及び事後の学習		
使用テキスト	○新・介護福祉士養成講座第13巻「障害の理解」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	・適宜資料配布する。		
その他 (受講生への要望等)	<p>・予習を必ず行い、授業に臨んで欲しい。他の教科と関連づけながら意識して学んでほしい。</p> <p>（資料整理のためのファイルを用意）</p>		
教員 e-mail アドレス	hayase@hcc.ac.jp		

授業科目名	こころとからだのしくみ I		
担当者名	奥川 満子		
科目コード	2500020	授業形態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	介護実践に必要な知識という観点から、からだところのしくみについての知識を養い、根拠に基づいた介護技術を修得できることを目的とする。さらに、介護技術の根本となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解できるように学習をすすめる。授業は、講義を中心とし、演習やグループワークなどを通して、人を理解できるように取り組んでいきたい。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の基本的な構造や機能及びその病態生理について理解できる。 2. 代表的な疾患についてその概要を理解することができる。 3. こころとからだのしくみを具体的に学び、介護実践に必要な意義を理解することができる。 4. みじたくに関連したこころとからだのしくみを学び、介護実践能力を培うことができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康とは何か：レポート 健康の定義と設立について 2. 人間欲求の基本的理解：基本的欲求・社会的欲求 3. 自己概念と尊厳について：自己実現といきがい 4. 齢者の理解 「折り梅」観賞：感想をレポート 5. からだとしくみの基礎：生命の維持・恒常のしくみ 6. からだとしくみの基礎：人体部位の名称、ボディメカニクス、関節可動域 7. からだのしくみの基礎：人体模型を用いて理解 8. バイタルサイン：血圧、脈拍、体温、呼吸の測定方法 9. 身じたくに関連した基礎知識：みじたく行為の生理的意味、爪や毛髪構造 10. 身じたくに関連した基礎知識：口腔のしくみ、口腔の清潔のしくみ 11. 機能の低下・障害が及ぼす整容行動への影響 12. 生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携 13. 老年期運動器の疾患：各自がレポートにまとめ、グループワーク 14. 老年期の運動器の疾患：グループワーク 15. まとめ 		
成績評価の方法	・レポート及び授業への取り組み（20%）、定期試験（80%）等を踏まえて、総合的に判断する。定期試験を最も重視する。		
授業外で行うべき学修（準備学修・事後学修等）	・演習の場合は、事前に学習すること。グループワークの課題は、事前にレポートで宿題としています。提出期限を守って下さい。		
使用テキスト	○介護福祉士養成講座編集委員会 「こころとからだのしくみ（第3版）」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	・参考書や参考資料、プリント等は適宜紹介・配布する。		
その他（受講生への要望等）	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の計画は、授業のガイドラインです。授業の進行状況により変更する場合があります。 ・授業で分からなかった点や質問がある場合は、メールでも受け付けます。但し、提出物は受け付けません。 <p>※課題提出について：当日欠席者も、必ず提出すること。</p>		
教員 e-mail アドレス	mokgawa@hcc.ac.jp		

授業科目名	こころとからだのしくみ II		
担当者名	奥川 満子		
科目コード	2500021	授業形態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	人体のしくみやこころのしくみを理解した上で、根拠ある介護サービスを提供することの必要性を理解することができるようになる。さらに、身体機能のしくみ、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメントや介護・連携などの必要性を理解できる。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 移動・食事・入浴・排泄・睡眠に関連したこころとからだのしくみを学び、根拠のある介護実践を行う必要性が理解できるようになる。 2. 死にゆく人のこころとからだのしくみについて理解することができる。 3. 医療職や他職種との連携の必要性について理解することができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 移動に関連したこころとからだの基礎知識：移動行為の生理的意味 2. 移動に関連したこころとからだのしくみ：安全・安楽な移動、歩行のしくみ 3. 機能の低下・障害が及ぼす移動への影響：グループワーク 4. 食事に関連したこころとからだの基礎知識：からだをつくる栄養素 5. 食べることの生理的意味、食べるしくみ 6. 食べることに関する機能の低下・障害の原因 7. 排泄に関連したこころとからだの基礎知識：排泄の生理的意味 8. 機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響：グループワーク 9. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識 10. 睡眠に関連したこころとからだの基礎知識：睡眠の生理的意味 11. 機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響：グループワーク 12. 生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携 ：グループワーク 13. 死にゆく人のこころとからだのしくみ：死に対する考え方 14. 終末期に対する医療職との連携 15. まとめ 		
成績評価の方法	・レポート及び授業への取り組み（20%）、定期試験（80%）等を踏まえて、総合的に判断する。定期試験を最も重視する。		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・演習の場合は、事前に学習すること。グループワークの課題は、事前にレポートで宿題としています。提出期限を守って下さい。		
使用テキスト	○介護福祉士養成講座編集委員会「こころとからだのしくみ（第3版）」（中央法規出版）		
参考書（参考資料等）	・参考書や参考資料、プリント等は適宜紹介、配布します。		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の計画は、授業のガイドラインです。授業の進行状況により変更する場合があります。 ・授業で分からなかった点や質問がある場合は、メールでも受け付けます。但し、提出物は受け付けません。 <p>※課題提出について：当日欠席者も、必ず提出すること。</p>		
教員 e-mail アドレス	mokgawa@hcc.ac.jp		

授業科目名	医療的ケア		
担当者名	奥川 満子		
科目コード	2500030	授業形態	講義・演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	<p>介護福祉士が医療的ケアを学ぶことになった経緯を理解し、対象となる人の健康状態の把握、高齢者及び障害児・者への喀痰吸引・経管栄養に必要な概念を学ぶとともに知識や技術が修得できることを目的とする。</p> <p>授業は、講義を中心とし、DVD による喀痰吸引等の実施手順などを学び、シミュレーターを用いて演習する。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケア実施の基礎として安全性、感染予防、健康状態把握のための知識を修得する。 2. 喀痰吸引の基礎的知識と実施手順を理解する。 3. 経管栄養の基礎的知識と実施手順を理解する。 4. 喀痰吸引、経管栄養などシミュレーターを用いて、手順通り実施できる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と社会： 個人の尊厳、医療の倫理、利用者や家族の気持ちの理解 2. 保健医療チーム制度とチーム医療：保健医療に関する制度、医行為に関係する法律 3. 安全な療養生活：喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 4. 救急蘇生 5. 清潔保持と感染予防：療養環境の清潔・消毒法、職員の感染予防 6. 滅菌と消毒の違い 7. 健康状態の把握、バイタルサインと急変状態について 8. 呼吸のしくみとはたらき、いつもと違う呼吸状態について 9. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論：呼吸のしくみと働き 10. 吸引器具・機材のしくみ、清潔操作について 11. 喀痰吸引ケアの実施手引き、報告および記録 12. 口腔内や鼻腔内吸引および気管カニューレ内部の喀痰吸引等の通常手順 13. 人口呼吸器装着患者の生活支援上の留意点について 14. 子どもの吸引について、利用者や家族への対応、説明と同意について 15. 急変・事故発生時の対応と事前対策 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に数回行う小テスト（10%）、授業態度（10%）、定期試験（80%）などで総合的に評価する。定期試験を最も重視する。 		
授業外で行うべき学修（準備学修・事後学修等）	<ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引等については、シミュレーター用いた演習の場合は「一人で実施できる」まで指導を受けて事後学習をすること。 		
使用テキスト	○最新介護福祉全書第13巻「医療的ケア」 川井太加子 他（メヂカルフレンド社）		
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で参考図書や文献を紹介する。演習や実技の時は、積極的にテキストや資料を読んで参加すること。 		
その他（受講生への要望等）	<ul style="list-style-type: none"> ・演習や実技は、介護実習室で行います。介護実習室では、実習服で臨んで下さい。髪型もまとめて下さい。 ・この授業は、演習実技を中心に展開するので、欠席した場合は、必ず追加補習を受けて、技術を修得しましょう。 		
教員 e-mail アドレス	mokgawa@hcc.ac.jp		

授業科目名	医療的ケア		
担当者名	奥川 満子		
科目コード	2500030	授業形態	講義・演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	介護福祉士必修
授業の概要と方法	<p>介護福祉士が医療的ケアを学ぶことになった経緯を理解し、対象となる人の健康状態の把握、高齢者及び障害児・者への喀痰吸引・経管栄養に必要な概念を学ぶとともに知識や技術が修得できることを目的とする。</p> <p>授業は、講義を中心とし、DVD による喀痰吸引等の実施手順などを学び、シミュレーターを用いて演習する。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケア実施の基礎として安全性、感染予防、健康状態把握のための知識を修得する。 2. 喀痰吸引の基礎的知識と実施手順を理解する。 3. 経管栄養の基礎的知識と実施手順を理解する。 4. 喀痰吸引、経管栄養などシミュレーターを用いて、手順通り実施できる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 16. 消化器のしくみとはたらき 17. 消化・吸収とよくある消化器の症状 18. 経管栄養とは 19. 経管栄養実施上の留意点 20. 子どもの経管栄養について 21. 経管栄養に関係する感染と予防 22. 経管栄養受ける利用者や家族への対応、説明と同意について 23. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 24. 急変・事故発生時の対応と事前確認 25. 経管栄養で用いる器具・機材及びそのしくみと清潔操作 26. 経管栄養ケア実施の手引き 27. 胃瘻・腸瘻、または経鼻による経管栄養 28. 喀痰吸引、経管栄養の実技演習 29. 報告と記録の必要性について 30. まとめ 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に数回を行う小テスト（10%）、授業態度（10%）、定期試験（80%）などで総合的に評価する。定期試験を最も重視する。 		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引等については、シミュレーター用いた演習の場合は「一人で実施できる」まで指導を受けて事後学習をすること。 		
使用テキスト	○最新介護福祉全書第 13 巻「医療的ケア」川井太加子 他（メヂカルフレンド社）		
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で参考図書や文献を紹介する。演習や実技の時は、積極的にテキストや資料を読んで参加すること。 		
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・演習や実技は、介護実習室で行います。介護実習室では、実習服で臨んで下さい。髪型もまとめて下さい。 ・この授業は、演習実技を中心に展開するので、欠席した場合は、必ず追加補習を受けて、技術を修得しましょう。 		
教員 e-mail アドレス	mokgawa@hcc.ac.jp		

授業科目名	バリアフリー論		
担当者名	奥村 チカ子 ・ 大丸 幸 ・ 村田 奈保子		
科目コード	2500022	授業形態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	選択
授業の概要と方法	超高齢社会を迎え、国の施策が施設依存型から、地域密着型へと変化をしている。高齢者・障がい者が住み慣れたわが家、住み慣れた地域での在宅生活を送る場合の障壁（バリアー）となる物を探り、身体状態を理解し、障壁（バリアー）を取り除く手法や、安心・安全な住まいの創り方の基本を知ることが目的とする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. バリアフリーの手法を理解し、高齢者・障がい者が在宅生活を維持できる方策を修得する。 2. 福祉住環境コーディネーター3級レベルの知識を目標とする。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、少子高齢社会と共生社会への道 (奥村) 2. バリアフリーとユニバーサルデザイン (大丸) 3. 福祉用具と住宅改修 (大丸) 4. 難病の方の在宅生活を支える (大丸) 5. 住まいの知識 1 建物構造 (奥村) 6. 住まいの知識 2 住宅設備機器 (奥村) 7. 生活行為別にみる安全・安心な生活：起居・移動 (奥村) 8. 生活行為別にみる安全・安心な生活：排泄・整容・更衣・入浴 (奥村) 9. 生活行為別にみる安全・安心な生活：清掃・洗濯・調理 (奥村) 10. 高齢者の健康と自立 (奥村) 11. 在宅生活の維持を支える介護保険制度 (奥村) 12. 障害の種類と自立の方策 (奥村) 13. 脳卒中片麻痺の方の在宅生活を支える (村田) 14. 安心できる住生活とまちづくり (奥村) 15. まとめ (奥村) 		
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>小テスト (30%)、レポート (10%)、期末試験 (60%)</p>		
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<p>・5月末までに福祉用具プラザを見学すること、6月にレポートを提出してもらいます。</p>		
使用テキスト	<p>○「福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト〔改訂4版〕」 (東京商工会議所)</p>		
参考書 (参考資料等)	<p>・適宜資料を配布します</p>		
その他 (受講生への要望等)	<p>・少なくとも、11月に行われる福祉住環境コーディネーター検定試験 3級に合格するよう学修すること。</p>		
教員 e-mail アドレス	<p>okumura@knwu.ac.jp (奥村) ohmaru@knwu.ac.jp (大丸) murata@knwu.ac.jp (村田)</p>		